

第9回環境コミュニケーション大賞採点基準 採点基準の基本的考え方

環境コミュニケーション大賞作業委員会

1. この採点基準は、応募作品の第1次選考にのみ用いるもので、本審査委員会では、審査員の識見に基づき審査される。
2. 「募集のご案内」で発表されている、「賞の種類」「選考基準」を実際の環境報告書を分析する場合の詳細項目として採点基準の項目を作成している。
記載項目については募集要項、6.選考基準に従い、内外の各種ガイドライン等も参考に網羅的に項目を整理した環境省作成の環境報告書ガイドラインに沿って作成していることが望ましいので、それを参考にしている。その他、「コミュニケーションツールとしての工夫」とか「独自の創意工夫」を評価する項目を追加している。更に、本年度は「持続可能な発展への取組」項目について、3年目にもなるので報告書の進展度を考慮して改定した。
作業用シートなので並べ方は作業のやり易さを第一義に考えてある。参考までに募集の案内およびガイドラインと同じく環境省作成の環境パフォーマンス指標等々のウェブサイトは下記のとおり。
募集要項 < http://www.gef.or.jp/eco-com/9th_ecom.htm >
環境報告書ガイドライン < <http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/04-4.html> >
環境パフォーマンス指標 < <http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/04-3.html> >
エコアクション 21 < <http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/04-5.html> >
3. 応募締め切り（10月21日）から審査委員会、表彰式までの時間的制約の中で、できるかぎり客観的かつ公平に評価するため、すべての項目を4段階評価（行動計画は3段階評価）する形式とした。
4段階の基本的な区分は次のようにした。
[3] 大変すぐれている
[2] 普通
[1] 劣っている
[0] 記述なし
これだけでは、実際には採点が不可能なので、各項目につき「例示的」に具体的水準を記述した。したがって、「例示の記述の文字通り」の採点をするわけではない。「例示」はあくまでも、レベル推定のための記述である。また、大賞が環境大臣賞なので各項目の評価については上記の環境省作成環境報告書ガイドラインを基本に用いることとしている。
4. 項目の配点については、「賞の種類」「選考基準」を基礎に、内外の配点例等も参考に専門家集団の討議で決定している。絶対的基準がないだけに異論は当然ありうるし、また、時の経過とともに変化していくものである。あくまで本年度の配点であり、当然のことながら次年度以降は変更もありうるものである。
5. 項目毎の「重み付け」も考え方は上記と同様である。
6. 以上のように、できる限り客観的評価の仕組を前提にし、最後に専門家としての総合評点を加味して評価する採点基準となっている。
7. 持続可能性報告
環境報告書として優れたものと判断されたものの内、持続可能性報告書と考えられるものについて、別途、採点をおこなうようシートを作成した。

以上

第9回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門/サイトレポート(合計100点)		
1) 基礎的項目 MAX: 13点	サイト責任者のコミットメント (5点) 企業全体の方針との整合性 (3点) サイト概要 (3点) 報告対象範囲・報告対象期間・発行年月 (2点)	
2) 環境マネジメントシステムに関する内容 MAX: 10点	組織・体制 (2点) 監査 (2点) 継続的改善 (2点) 緊急時対応 (2点) 教育 (2点)	
3) 環境パフォーマンスに関する内容 MAX: 40点	3-1 全般 MAX: 10点 3-2 個別指標1 Operation(操業) 3-2-1 製造業 MAX: 20点 総エネルギー投入量及び その低減対策 (5点) 温室効果ガス等の大気への排出量 及びその低減対策 (5点) 業種毎に下記項目について重点項目を別途、勘案し総合評価する。 (10点) 3-3 個別指標2 設計・上下流 3-3-1 製造業 MAX: 10点 製品設計での環境配慮 (5点) 製品・容器等のリサイクル、回収、 資源再利用の取り組み等 (3点) サプライ・チェーンに対する 環境配慮 (3点) グリーン調達 (3点)	3-1 全般 MAX: 10点 3-2 個別指標1 Operation(操業) 3-3-2 非製造業 MAX: 15点 総エネルギー投入量及び その低減対策 (5点) 温室効果ガス等の大気への排出量 及びその低減対策 (5点) 業種毎に下記項目について重点項目を別途、勘案し総合評価する。 (5点) 3-3 個別指標2 設計・上下流 3-3-2 非製造業 MAX: 15点 製品サービスでの環境配慮 (6点) 販売・サービス提供後の回収・ リサイクル (6点) グリーン調達 (4点) サプライ・チェーンに対する 環境配慮 (3点)
4) 社会貢献その他の地域社会とのかかわり MAX: 15点	社会貢献への取組 (6点) 地域社会とのパートナーシップ形成への取組 (6点) その他社会性項目(雇用、人権、等) (3点)	
5) コミュニケーション MAX: 6点	コミュニケーションの工夫 (2点) 信頼性担保の工夫 (1点) 理解しやすい工夫 (1点) 比較容易性の工夫 (1点) 検証可能性の工夫 (1点)	
6) その他の事項 MAX: 6点	環境会計・環境効率 (3点) 環境に関しマイナスとなりうる情報(苦情・事故・訴訟等) (3点)	
7) 総合評価 MAX: 10点	上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。	

第9回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門/持続可能性報告(100点)	
1) 経営者コミットメントと 仕組み MAX:30点	経営責任者のコミットメント (10点) サステナビリティの認識 (10点) CSR マネジメント体制の構築等 (10点)
2) 社会・経済性側面に関わる 内容 MAX:50点	社会的側面 MAX:40点 雇用・労働 (6点) 人権(人権保護、ILO 重点4分野、等) (6点) 地域社会 (6点) 公正取引 (6点) 製品責任・顧客満足 (6点) その他の社会性項目 (5点) その他(社会貢献への取組、受賞歴や、自ら運用する年金のSRI取組、等) (5点) 経済的側面 MAX:10点 財務報告を超えた経済的側面の開示、および指標等についての工夫等 (10点)
3) ステークホルダー・ コミュニケーション MAX:10点	ステークホルダー・コミュニケーションへの取組 (10点)
4) 総合評価 MAX:10点	上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

以上